

大船渡市

令和2年1月29日付 7面

憩いの緑地 復旧へ 6月末までの完工見込む サン・アンドレス公園 大船渡



▲ 復旧が進むサン・アンドレス公園



▲ 震災前の同公園

東日本大震災で被災し、県が昨年2月から進めている大船渡港野々田地区緑地公園（愛称・サン・アンドレス公園）の復旧工事が、今年5月末から6月末にかけて完了する見通しとなった。震災前、多くの市民らに親しまれ、県内有数の港湾を誇る大船渡の象徴の一つとなっていた同公園。かつての憩いの緑地が、まもなく復活する。

聖火リレールートにも

同公園は、大船渡港野々田地区港湾整備事業の一環として、公共埠頭（ふとう）内に港湾労働者の憩いの場、市民との交流の場として緑地を取り入れることで、港湾内の構築物が与える景観的圧迫感の緩和、景観的に単調な空間に変化を与えるなどの修景緑地として整備。平成元年に着工し、同4年3月に完成した。

愛称である「サン・アンドレス公園」は、慶長16年（1611）にスペイン使節のセバスチャン・ビスカイノが、藩主・伊達政宗の許可を得て松島以北の伊達領沿岸の測量を行った際、大船渡港に入港した日が聖アンドレスの祭日だったことから、これを記念して「サン・アンドレス

がもめテラス KAMOME TERRACE

酔心 静仙酒造

建築のフジサワ

東海新報 電子新聞 早くて 便利で 見やすい 電子新聞 始まりました!! 購読のお申し込みはこちら

無料おためし申込 東海新報電子新聞を体験できます!

東海新報 「いいね！」した友達はまだいません

湾」と命名した——という故事に由来している。

事業費は約4億円で、全体面積は1・6㌖。外観をスペイン風にデザインしたトイレ、時計塔、東屋のほか、遊具やベンチ、花壇なども設置され、大船渡湾や町内を見渡すことのできる高さ約20㌖の展望台も人気のスポットとなっていた。

大船渡、大船渡西の両ロータリークラブ、大船渡、大船渡五葉の両ライオンズクラブ、大船渡青年会議所により、大船渡市民のスペインとの友好と親善の願いを象徴するモニュメントも設けられていた。

海沿いにあった同公園は、平成23年の東日本大震災で被災。その後は、大船渡港の防潮堤工事の資材置き場などとして利用されており、防潮堤工事の進捗よくともなって資材がなくなったため、県は31年2月に復旧工事に着手した。

復旧事業費は約2億4000万円。原型復旧の工事となっており、展望台は修復して再利用し、東屋、トイレも整備。園路や芝生、舗装部分なども復旧させ、震災前にあったブランコや滑り台などの遊具は、複合遊具として設置する。

公園海側には延長約211㌖にわたって防潮堤（TP7・5㌖）が新設されているが、海側を走る臨港道路から階段を使って園内に入ることもできるようになる。

昨年5月には、大船渡町の市防災観光交流センターを中心に、同公園を含む周辺施設が国土交通省港湾局によって「みなとオアシス」に登録された。みなとオアシスは、国が平成15年に設立した制度で、「みなと」を核としたまちづくり促進を図るもの。

さらに、同公園は、東京オリンピック聖火リレーにおいて大船渡市ルートの到着予定地にも設定されており、港湾周辺のにぎわい創出に向け、早期復旧への期待が高まる。

県大船渡土木センター河川港湾課の佐藤秀三課長は「また震災前のように親んでもらえる公園となって、広く県民の皆さんに利用していただきたい。早期復旧に向けて工事を進めていく」と話していた。

[▲ 戻る](#)